第3四半期報告書

本書は、ＥＤＩＮＥＴ（Electronic Disclosure for Investors' NETwork）システムを利用して金融庁に提出した第3四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

あすか製薬株式会社

(E00929)

目　　次

【表紙】・・・

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】 ・・・・・・・・・ 16
【表示方法の変更】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
【簡便な会計処理】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】 ・・・・・・・・・・・・ 17
【注記事項】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
【事業の種類別セグメント情報】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
【所在地別セグメント情報】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
【海外売上高】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
2 【その他】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
レビュー報告書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の４の７第１項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年２月15日
【四半期会計期間】	第90期第３四半期（自　平成21年10月１日　至　平成21年12月31日）
【会社名】	あすか製薬株式会社
【英訳名】	ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長　　山口　隆
【本店の所在の場所】	東京都港区芝浦二丁目５番１号
【電話番号】	（03）5484－8361（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長　　佐々木　洋
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝浦二丁目５番１号
【電話番号】	（03）5484－8361（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長　　佐々木　洋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町２番１号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

回次	第89期 第３四半期連結 累計期間	第90期 第３四半期連結 累計期間	第89期 第３四半期連結 会計期間	第90期 第３四半期連結 会計期間	第89期
会計期間	自平成20年 ４月１日 至平成20年 12月31日	自平成21年 ４月１日 至平成21年 12月31日	自平成20年 10月１日 至平成20年 12月31日	自平成21年 10月１日 至平成21年 12月31日	自平成20年 ４月１日 至平成21年 ３月31日
売上高（百万円）	22,707	26,387	8,256	11,408	30,422
経常利益（百万円）	1,330	368	822	603	1,377
四半期(当期)純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	369	△476	41	△189	600
純資産額（百万円）	―	―	33,621	32,929	33,109
総資産額（百万円）	―	―	49,193	54,933	50,801
１株当たり純資産額（円）	―	―	1,193.42	1,168.56	1,175.32
１株当たり四半期(当期)純利益金額又は１株当たり四半期純損失金額（△）（円）	13.10	△16.91	1.45	△6.72	21.30
潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	―	―	―	―	―
自己資本比率（%）	―	―	68.3	59.9	65.2
営業活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△1,176	2,130	―	―	△214
投資活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△3,225	△4,689	―	―	△2,247
財務活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△484	1,854	―	―	△529
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高（百万円）	―	―	7,879	9,070	9,774
従業員数（人）	―	―	1,053	1,062	1,042

（注）１．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

２．売上高には、消費税等は含まれておりません。

３．潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第３四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第３四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	1,062　(143)

（注）　従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は（　）内に当第３四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	1,010

（注）　従業員数は就業人員であります。

第２【事業の状況】

１【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

区分	当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）	前年同四半期比（%）
医療用医薬品（百万円）	5,593	113.1
一般用医薬品（百万円）	17	29.6
動物用医薬品（百万円）	111	62.0
その他（百万円）	12	9.9
計（百万円）	5,735	108.0

（注）１．金額は仕切価格によっております。
２．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

区分	当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）	前年同四半期比（%）
医療用医薬品（百万円）	4,359	361.8
動物用医薬品（百万円）	98	96.9
医療機器（百万円）	28	214.7
その他（百万円）	15	104.6
計（百万円）	4,501	337.3

（注）１．金額は仕入価格によっております。
２．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当社グループは販売計画、在庫状況に基づいて生産計画をたて、これによって生産しているため、受注生産は行っておりません。

(4) 販売実績

区分	当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）	前年同四半期比（%）
医療用医薬品（百万円）	10,979	140.7
一般用医薬品（百万円）	25	54.7
動物用医薬品（百万円）	325	108.3
医療機器（百万円）	21	104.6
その他（百万円）	56	65.7
計（百万円）	11,408	138.2

（注）１．前第３四半期連結会計期間及び当第３四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第３四半期連結会計期間 （自　平成20年10月１日 至　平成20年12月31日）		当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）	
	金額（百万円）	割合（%）	金額（百万円）	割合（%）
武田薬品工業株式会社	6,977	84.5	10,192	89.3

２．本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第３四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第３四半期連結会計期間において、締結、解約した重要な契約は次のとおりであります。

(1)当第３四半期連結会計期間に締結した重要な契約

事業の譲受けに関する契約

契約会社名	相手方の名称	国名	譲受ける事業	譲受ける年月日
あすか製薬株式会社	協和発酵バイオ株式会社	日本	畜水産分野における国内販売事業	2010年４月１日

(2)当第３四半期連結会計期間に解約した重要な契約

技術導入契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	解約した時期
あすか製薬株式会社	日本ケミカルリサーチ株式会社	日本	ムコ多糖症Ⅱ型（ハンター病）治療剤	開発・製造・販売権の許諾	2009年12月

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

（１） 業績の概況

当第３四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界的な金融不安の影響を受けた景気に持ち直しの動きが見られたものの、企業収益の悪化等を背景に設備投資は低水準で推移し、雇用・所得環境の悪化、個人消費の低迷等引き続き厳しい状況で推移しました。

医薬品業界におきましては、診断群別包括支払制（DPC）対象病院のさらなる増加、後発医療用医薬品の普及拡大が進むなど薬剤費削減の基調が継続し、引き続き厳しい状況で推移しました。

このような状況のもと当社グループは、医薬品事業を中心に売上げの確保に努めました結果、主力製品の競争激化の影響はありましたが、新製品として後発医療用医薬品（上期２品目、11月５品目）ならびにワイス株式会社からの承継品（５品目）および経皮吸収型鎮痛消炎剤セルタッチの販売などにより、売上高は114億８百万円（前年同期比38.2%増）となりました。利益面では、売上高は増加しましたが、売上構成の変化による売上原価率の増加ならびに研究開発費および販売費等増加の影響により、営業利益５億３千万円（前年同期比28.5%減）、経常利益６億３百万円（前年同期比26.6%減）とそれぞれ減益となり、また、特別損失として投資有価証券評価損８億２千７百万円（前年同期は８億３千１百万円）を計上したことにより、四半期純損失１億８千９百万円（前年同期は４千１百万円の四半期純利益）となりました。

各分野における売上状況は、医薬品分野では消化性潰瘍・胃炎治療剤「アルタット」、前立腺肥大症・癌治療剤「プロスタール」、甲状腺ホルモン剤「チラーヂン」、高脂血症治療剤「リピディル」、高血圧治療剤「アムロジピン」、更年期障害治療剤「メノエイドコンビパッチ」、経口避妊剤「アンジュ」、５月に上市した前立腺癌治療剤「ビカルタミド」、さらにワイス株式会社からの承継品などを中心に販売努力をいたしました結果、売上高は110億４百万円（前年同期比40.2%増）となりました。

動物用医薬品分野では主力製品の繁殖器官用製剤「セロトロピン」、「レジプロン」、「アトニン」、牛用消炎鎮痛剤「メタカム」および豚・鶏用飼料添加剤「アイブロシン」を中心に販売努力をいたしました結果、売上高は３億２千５百万円（前年同期比8.3%増）となりました。

その他、検査、食品、医療機器、原料薬品等の各分野では、それぞれ市況の厳しさが続くなかで鋭意販売努力をいたしましたが、売上高は７千８百万円（前年同期比26.7%減）となりました。

生産面におきましては、一層の生産の効率化に取り組み、安定供給、高品質の確保を目指すとともに計画に則した生産を順調に達成することができました。また、いわき工場新棟の新生産体制は、本年４月の本稼動を目指し順調に進んでおります。

当第３四半期連結会計期間における設備投資額は３億４千４百万円で、その主なものは生産設備等であり、全額自己資金で賄っております。

当第３四半期連結会計期間においては、社債の発行、増資などによる資金調達は行っておりません。

（２） キャッシュ・フローの状況

当第３四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、第２四半期連結会計期間末に比べ17億８千８百万円増加し、90億７千万円となりました。

当第３四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、23億１千７百万円（前年同期は４億１千６百万円の減少）となりました。これは主に仕入債務の増加及び投資有価証券評価損計上等が、売上債権の増加等による資金の減少を上回ったためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、３億３千３百万円（前年同期は14億５千３百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得資金として使用したためであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、１億９千５百万円（前年同期は２億４千２百万円の減少）となりました。これは主に配当金の支払によるものであります。

（３） 事業上および財務上の対処すべき課題

当第３四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（４） 研究開発活動

当第３四半期連結会計期間における研究開発費総額は12億８千８百万円であります。なお、当第３四半期連結会計期間において、アルタットカプセルの小児用法・用量を追加する一部変更の申請を行いました。また、高血圧治療剤アムロジピンOD錠、外耳炎・中耳炎治療剤タリザート耳科用液、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤メサラジン顆粒、急性気管支炎・感染症治療剤レボフロキサシン錠および胃炎・胃潰瘍治療剤レバミピド顆粒の後発医療用医薬品５品目を11月に上市しました。

第３【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第３四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第３四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第４【提出会社の状況】

１【株式等の状況】

（１）【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

②【発行済株式】

種類	第３四半期会計期間末現在発行数（株）（平成21年12月31日）	提出日現在発行数（株）（平成22年２月15日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	30,563,199	30,563,199	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	30,563,199	30,563,199	－	－

（２）【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

（３）【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

（４）【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（百万円）	資本金残高（百万円）	資本準備金増減額（百万円）	資本準備金残高（百万円）
平成21年10月１日～平成21年12月31日	－	30,563,199	－	1,197	－	844

（５）【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第３四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

（6）【議決権の状況】

当第３四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成21年９月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成21年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	―	―	―
議決権制限株式（自己株式等）	―	―	―
議決権制限株式（その他）	―	―	―
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 2,393,000	―	単元株式数1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 27,974,000	27,974	同上
単元未満株式	普通株式 196,199	―	―
発行済株式総数	30,563,199	―	―
総株主の議決権	―	27,974	―

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株（議決権の数１個）含まれております。

②【自己株式等】

平成21年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
あすか製薬株式会社	東京都港区芝浦二丁目５番１号	2,094,000	―	2,094,000	6.85
株式会社あすか製薬メディカル	神奈川県川崎市高津区下作延1604	299,000	―	299,000	0.97
計	―	2,393,000	―	2,393,000	7.82

２【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
最高（円）	870	841	858	832	845	870	855	802	664
最低（円）	784	782	804	770	804	781	781	610	619

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

３【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第５【経理の状況】

１．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第３四半期連結会計期間（平成20年10月１日から平成20年12月31日まで）及び前第３四半期連結累計期間（平成20年４月１日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第３四半期連結会計期間（平成21年10月１日から平成21年12月31日まで）及び当第３四半期連結累計期間（平成21年４月１日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、前第３四半期連結会計期間（平成20年10月１日から平成20年12月31日まで）及び前第３四半期連結累計期間（平成20年４月１日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、公認会計士桜友共同事務所所属の公認会計士杉浦文彦氏、同　公認会計士野中信男氏及び同　公認会計士藤枝宗明氏による四半期レビューを受け、また、当第３四半期連結会計期間（平成21年10月１日から平成21年12月31日まで）及び当第３四半期連結累計期間（平成21年４月１日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、公認会計士桜友共同事務所所属の公認会計士野中信男氏、同　公認会計士藤枝宗明氏及び同　公認会計士中市俊也氏による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
（1）【四半期連結貸借対照表】

（単位：百万円）

	当第３四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年３月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,830	5,034
受取手形及び売掛金	※4 8,952	8,497
有価証券	5,340	4,840
商品及び製品	5,151	3,168
仕掛品	551	739
原材料及び貯蔵品	1,742	1,258
その他	1,442	1,833
流動資産合計	27,010	25,372
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,695	5,900
その他（純額）	8,982	8,881
有形固定資産合計	※1 14,677	※1 14,781
無形固定資産	3,444	890
投資その他の資産		
投資有価証券	4,441	4,181
その他	5,450	5,695
貸倒引当金	△120	△120
投資その他の資産合計	9,770	9,756
固定資産合計	27,893	25,428
繰延資産	29	―
資産合計	54,933	50,801

（単位：百万円）

	当第３四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年３月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 6,690	3,478
短期借入金	133	133
未払法人税等	36	73
賞与引当金	613	1,268
その他の引当金	7	9
その他	※4 3,475	3,605
流動負債合計	10,957	8,569
固定負債		
長期借入金	3,077	940
退職給付引当金	6,785	6,700
その他の引当金	246	250
その他	937	1,230
固定負債合計	11,047	9,122
負債合計	22,004	17,691
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	845	845
利益剰余金	33,274	34,145
自己株式	△2,305	△2,304
株主資本合計	33,011	33,884
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△95	△774
評価・換算差額等合計	△95	△774
少数株主持分	12	―
純資産合計	32,929	33,109
負債純資産合計	54,933	50,801

（２）【四半期連結損益計算書】
【第３四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 (自　平成20年４月１日 至　平成20年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日)
売上高	22,707	26,387
売上原価	8,261	11,763
売上総利益	14,445	14,624
返品調整引当金繰入額	0	△2
差引売上総利益	14,444	14,626
販売費及び一般管理費	※1 13,360	※1 14,455
営業利益	1,083	171
営業外収益		
受取利息	40	9
受取配当金	83	79
不動産賃貸料	137	127
その他	67	46
営業外収益合計	328	263
営業外費用		
支払利息	18	25
たな卸資産処分損	27	－
固定資産処分損	5	5
コミットメントフィー	－	25
その他	29	9
営業外費用合計	81	65
経常利益	1,330	368
特別利益		
退職給付制度終了益	141	－
投資有価証券清算益	81	－
特別利益合計	222	－
特別損失		
投資有価証券評価損	886	884
特別損失合計	886	884
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	666	△515
法人税等	※2 297	※2 38
少数株主損失（△）	－	△77
四半期純利益又は四半期純損失（△）	369	△476

【第３四半期連結会計期間】

（単位：百万円）

	前第３四半期連結会計期間 (自　平成20年10月１日 至　平成20年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日)
売上高	8,256	11,408
売上原価	3,032	5,919
売上総利益	5,224	5,489
返品調整引当金繰入額	△0	△0
差引売上総利益	5,225	5,489
販売費及び一般管理費	※1 4,483	※1 4,959
営業利益	741	530
営業外収益		
受取利息	8	1
受取配当金	35	37
不動産賃貸料	46	44
その他	21	17
営業外収益合計	111	101
営業外費用		
支払利息	5	12
固定資産処分損	1	3
コミットメントフィー	－	8
支払補償費	15	－
その他	8	3
営業外費用合計	30	28
経常利益	822	603
特別利益		
投資有価証券清算益	81	－
特別利益合計	81	－
特別損失		
投資有価証券評価損	831	827
特別損失合計	831	827
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	72	△223
法人税等	※2 31	※2 △14
少数株主損失（△）	－	△19
四半期純利益又は四半期純損失（△）	41	△189

（3）【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 (自　平成20年４月１日 至　平成20年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	666	△515
減価償却費	627	1,291
投資有価証券評価損益（△は益）	886	884
投資有価証券清算損益（△は益）	△81	―
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△1,353	85
賞与引当金の増減額（△は減少）	△684	△663
受取利息及び受取配当金	△123	△89
支払利息	18	25
売上債権の増減額（△は増加）	△581	△455
たな卸資産の増減額（△は増加）	△554	△2,278
仕入債務の増減額（△は減少）	235	3,223
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額（△は減少）	1,346	△205
その他	△20	944
小計	379	2,246
利息及び配当金の受取額	121	89
利息の支払額	△18	△17
法人税等の支払額	△1,659	△188
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,176	2,130
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,524	△1,556
無形固定資産の取得による支出	―	△2,405
投資有価証券の清算による収入	99	―
その他	△800	△728
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,225	△4,689
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	―	2,200
少数株主からの払込みによる収入	―	90
自己株式の純増減額（△は増加）	△1	△1
配当金の支払額	△370	△371
その他	△112	△62
財務活動によるキャッシュ・フロー	△484	1,854
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△4,886	△704
現金及び現金同等物の期首残高	12,765	9,774
現金及び現金同等物の四半期末残高	※　7,879	※　9,070

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
連結の範囲に関する事項の変更	(1) 連結の範囲の変更 第１四半期連結会計期間より、あすかActavis製薬株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。 (2) 変更後の連結子会社の数 ３社

【表示方法の変更】

当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
（四半期連結損益計算書） 前第３四半期連結累計期間において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「コミットメントフィー」は、営業外費用総額の100分の20を超えたため、当第３四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第３四半期連結累計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「コミットメントフィー」は５百万円であります。 （四半期連結キャッシュ・フロー計算書） 前第３四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「無形固定資産の取得による支出」は、重要性が増加したため、当第３四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第３四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「無形固定資産の取得による支出」は△149百万円であります。

当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）
（四半期連結貸借対照表） 前第３四半期連結会計期間まで区分掲記しておりました「確定拠出年金移行時未払金」（当第３四半期連結会計期間末の残高は933百万円）は、重要性が乏しいため、固定負債の「その他」に含めて表示することにしました。 （四半期連結損益計算書） 前第３四半期連結会計期間において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「コミットメントフィー」は、営業外費用総額の100分の20を超えたため、当第３四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第３四半期連結会計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「コミットメントフィー」は３百万円であります。

【簡便な会計処理】

	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
１．たな卸資産の評価方法	当第３四半期連結会計期間末のたな卸資産の算出については、実地たな卸を省略し、第２四半期連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。
２．固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
３．法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境に著しい変化が生じておらず、かつ、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められますので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
税金費用の計算	税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

当第３四半期連結会計期間末 （平成21年12月31日）	前連結会計年度末 （平成21年３月31日）
※１　有形固定資産の減価償却累計額は、22,747百万円であります。	※１　有形固定資産の減価償却累計額は、22,015百万円であります。
２　保証債務 従業員の財形制度による住宅資金等の金融機関借入金に対し68百万円の債務保証を行っております。	２　保証債務 従業員の財形制度による住宅資金等の金融機関借入金に対し76百万円の債務保証を行っております。
３　当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関５行と特定融資枠契約を締結しております。 特定融資枠契約の総額　7,000百万円 借入実行残高　2,200百万円	３　当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関５行と特定融資枠契約を締結しております。 特定融資枠契約の総額　4,000百万円 借入実行残高　－百万円
※４　四半期連結会計期間末日満期手形 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第３四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行なわれたものとして処理しております。当第３四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります 受取手形　57百万円 支払手形　24百万円	４　――――――

（四半期連結損益計算書関係）

前第３四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
※１　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当・賞与　3,630百万円 賞与引当金繰入額　383百万円 退職給付引当金繰入額　285百万円 研究開発費　3,450百万円	※１　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当・賞与　3,479百万円 賞与引当金繰入額　378百万円 退職給付引当金繰入額　307百万円 研究開発費　3,989百万円
※２　当四半期連結累計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。	※２　当四半期連結累計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

前第３四半期連結会計期間 （自　平成20年10月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）
※１　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当・賞与　1,757百万円 賞与引当金繰入額　△446百万円 退職給付引当金繰入額　94百万円 研究開発費　1,116百万円	※１　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当・賞与　1,635百万円 賞与引当金繰入額　△355百万円 退職給付引当金繰入額　103百万円 研究開発費　1,288百万円
※２　当四半期連結会計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。	※２　当四半期連結会計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前第３四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
※　現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 （平成20年12月31日現在） 現金及び預金勘定　5,999百万円 預入期間が３か月を超える定期預金　△100百万円 取得日から３か月以内に償還期限の到来する有価証券　1,980百万円 現金及び現金同等物　7,879百万円	※　現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 （平成21年12月31日現在） 現金及び預金勘定　3,830百万円 預入期間が３か月を超える定期預金　△100百万円 取得日から３か月以内に償還期限の到来する有価証券　5,340百万円 現金及び現金同等物　9,070百万円

（株主資本等関係）

当第３四半期連結会計期間末（平成21年12月31日）及び当第３四半期連結累計期間（自　平成21年４月１日　至　平成21年12月31日）

１．発行済株式の種類及び総数

普通株式　30,563千株

２．自己株式の種類及び株式数

普通株式　2,394千株

３．配当に関する事項

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年６月26日定時株主総会	普通株式	197	7	平成21年３月31日	平成21年６月29日	利益剰余金
平成21年10月30日取締役会	普通株式	197	7	平成21年９月30日	平成21年11月30日	利益剰余金

（セグメント情報）

【事業の種類別セグメント情報】

前第３四半期連結会計期間（自平成20年10月１日　至平成20年12月31日）及び当第３四半期連結会計期間（自平成21年10月１日　至平成21年12月31日）並びに前第３四半期連結累計期間（自平成20年４月１日　至平成20年12月31日）及び当第３四半期連結累計期間（自平成21年４月１日　至平成21年12月31日）

医薬品事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第３四半期連結会計期間（自平成20年10月１日　至平成20年12月31日）及び当第３四半期連結会計期間（自平成21年10月１日　至平成21年12月31日）並びに前第３四半期連結累計期間（自平成20年４月１日　至平成20年12月31日）及び当第３四半期連結累計期間（自平成21年４月１日　至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第３四半期連結会計期間（自平成20年10月１日　至平成20年12月31日）及び当第３四半期連結会計期間（自平成21年10月１日　至平成21年12月31日）並びに前第３四半期連結累計期間（自平成20年４月１日　至平成20年12月31日）及び当第３四半期連結累計期間（自平成21年４月１日　至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

（１株当たり情報）

１．１株当たり純資産額

当第３四半期連結会計期間末 （平成21年12月31日）	前連結会計年度末 （平成21年３月31日）
１株当たり純資産額　1,168.56円	１株当たり純資産額　1,175.32円

２．１株当たり四半期純利益金額又は１株当たり四半期純損失金額（△）

前第３四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
１株当たり四半期純利益金額　13.10円 なお、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	１株当たり四半期純損失金額（△）　△16.91円 なお、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、１株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）　１株当たり四半期純利益金額又は１株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	369	△476
普通株主に帰属しない金額（百万円）	－	－
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	369	△476
期中平均株式数（千株）	28,171	28,169

前第３四半期連結会計期間 （自　平成20年10月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）
１株当たり四半期純利益金額　1.45円 なお、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	１株当たり四半期純損失金額（△）　△6.72円 なお、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、１株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）　１株当たり四半期純利益金額又は１株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第３四半期連結会計期間 （自　平成20年10月１日 至　平成20年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （自　平成21年10月１日 至　平成21年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	41	△189
普通株主に帰属しない金額（百万円）	－	－
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	41	△189
期中平均株式数（千株）	28,170	28,169

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

２【その他】

平成21年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ）中間配当による配当金の総額……197百万円

(ロ）１株当たりの金額……７円00銭

(ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日……平成21年11月30日

（注）　平成21年９月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年２月10日

あすか製薬株式会社

取締役会　御中

事務所名　　公認会計士桜友共同事務所

公認会計士　　杉浦　文彦　　印

公認会計士　　野中　信男　　印

公認会計士　　藤枝　宗明　　印

私たちは、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているあすか製薬株式会社の平成20年４月１日から平成21年３月31日までの連結会計年度の第３四半期連結会計期間（平成20年10月１日から平成20年12月31日まで）及び第３四半期連結累計期間（平成20年４月１日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たちの責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、あすか製薬株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第３四半期連結会計期間及び第３四半期連結累計期間の経営成績並びに第３四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
２．四半期連結財務諸表の範囲にはＸＢＲＬデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年２月10日

あすか製薬株式会社

取締役会　御中

事務所名　　公認会計士桜友共同事務所

公認会計士　　野中　信男　　印

公認会計士　　藤枝　宗明　　印

公認会計士　　中市　俊也　　印

私たちは、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているあすか製薬株式会社の平成21年４月１日から平成22年３月31日までの連結会計年度の第３四半期連結会計期間（平成21年10月１日から平成21年12月31日まで）及び第３四半期連結累計期間（平成21年４月１日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、私たちの責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、あすか製薬株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第３四半期連結会計期間及び第３四半期連結累計期間の経営成績並びに第３四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

２．四半期連結財務諸表の範囲にはＸＢＲＬデータ自体は含まれていません。